

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

担当課：道路局環境安全・防災課
担当課長名：野田 勝

事業の概要

| | | | | | |
|-----|----------------------------------|------|-------|------|------|
| 事業名 | 高規格ICアクセス道路 一般県道 井関御坊線（原谷～萩原） | 事業区分 | 地方道 | 事業主体 | 和歌山県 |
| 起終点 | 自：和歌山県日高郡日高町原谷 至：和歌山県日高郡日高町萩原 | 延長 | 3.2km | | |

事業概要
湯浅御坊道路は和歌山県御坊市を起点とし、和歌山県有田郡有田川町に至る総延長約19kmの高規格幹線道路である。

県道井関御坊線（原谷～萩原）は、平成33年を目標に4車線化が進められている湯浅御坊道路の広川南ICへのアクセス道路であり、整備により、周辺地域から広川南ICへのアクセス性向上、緊急輸送道路の機能強化が図られる。

事業の目的、必要性

井関御坊線（原谷～萩原）は、現道の幅員が狭小であるため、乗用車の対向にも支障をきたしている。当該区間を整備することにより、湯浅御坊道路広川南ICへのアクセス性が向上するとともに、大規模地震時の津波浸水時においても、日高町等への緊急輸送を確実に実施できるなど、第二次緊急輸送道路としての機能強化が図られる。

全体事業費：約32億円 計画交通量：約2,700台/日

事業概要図



関係する地方公共団体等の意見

地元日高町より早期整備を要望されている。

学識者等の第三者委員会の意見

—

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている。

事業評価結果

| | | | | | |
|-------|---------|--------|--|--|--------------|
| 費用対便益 | B/C | 1.6 | 総費用：25億円 （事業費：24億円 維持管理費：0.78億円） | 総便益：41億円 （走行時間短縮便益：36億円 走行経費減少便益：4.5億円 交通事故減少便益：0.46億円） | 基準年 平成30年 |
| | 感度分析の結果 | 交通量変動 | B/C=1.8 (交通量 +10%) | B/C=1.4 (交通量 -10%) | |
| | | 事業費変動 | B/C=1.5 (事業費 +10%) | B/C=1.8 (事業費 -10%) | |
| | | 事業期間変動 | B/C=1.5 (事業期間 +20%) | B/C=1.7 (事業期間 -20%) | |

| 事業の影響 | 評価項目 | 評価 | 根拠 |
|----------|-------------|---------------------|--|
| | 自動車や歩行者への影響 | 渋滞対策 | — |
| 事故対策 | | — | 注目すべき影響はない。 |
| 歩行空間 | | — | 注目すべき影響はない。 |
| 社会全体への影響 | 住民生活 | ○ | 日高町中心部及び海岸部から湯浅御坊道路広川南ICへのアクセス性が向上し、利便性の向上が見込まれる。 |
| | 地域経済 | ○ | 日高町中心部及び海岸部から湯浅御坊道路広川南ICへのアクセス性が向上し、地域産業の振興が見込まれる。 |
| | 災害 | ◎ | 第二緊急輸送道路の機能が強化される。 |
| | 環境 | — | 注目すべき影響はない。 |
| | 地域社会 | ○ | 日高町中心部及び海岸部から湯浅御坊道路広川南ICへのアクセス性が向上し、社会経済活動の振興が見込まれる。 |
| 事業実施環境 | ◎ | 日高町より、早期整備を要望されている。 | |

採択の理由

事業主体である和歌山県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.6と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、高規格幹線道路である湯浅御坊道路広川南ICへのアクセス向上、緊急輸送道路の機能強化が図られるなど、当該事業の必要性、効果は高いものと判断される。
以上により、本事業は平成31年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。